

GIS を利用した古代地震の復原に関する基礎的研究

経費 平成 15～17 年度 科学研究費補助金（萌芽研究）（合計 260 万円）

研究組織 今津勝紀（代表・社会文化科学研究科助教授（文） 日本古代史）
隈元 崇（自然科学研究科助教授（理） 地震科学）

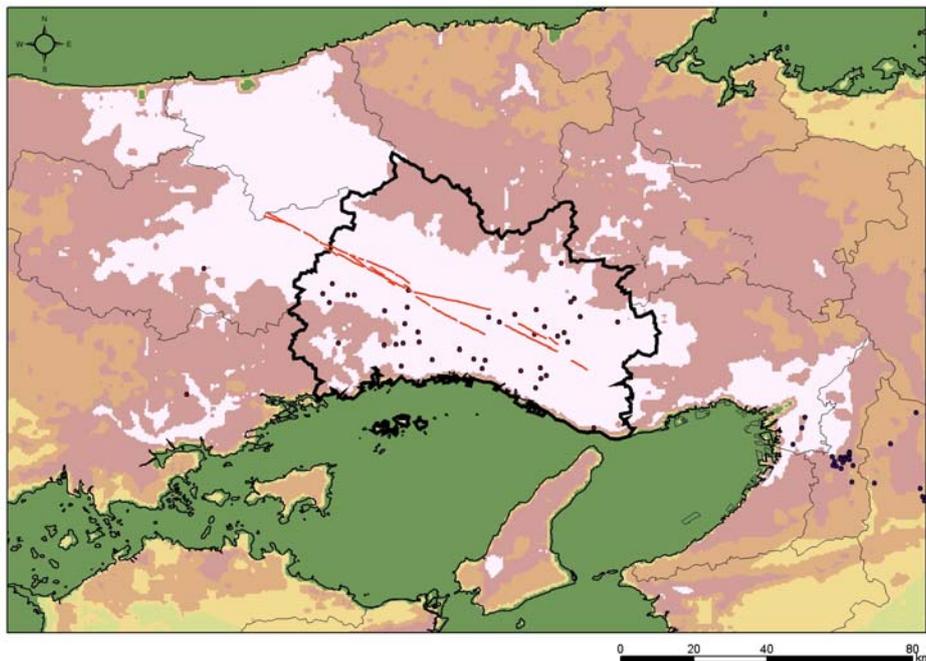
特徴 地震学での強震動予測、未来の地震を予測する手法を過去の震動の復原に応用、シミュレーション（数理計算モデル）の歴史学への応用

経緯 阪神大震災以来、地震工学など関連分野での予測研究の蓄積。『シミュレーションによる人口変動と集落形成過程の研究』（萌芽研究 研究代表者 岡山大学文学部教授・新納泉、2005.3）での人口変動と集落形成に関するシミュレーション

成果 2006 年 3 月 4 日 第 22 回条里制・古代都市研究会（於：奈良文化財研究所）で「天平六年地震と聖武天皇」について発表。

今後の方向 文化財への被害予測への応用 etc、

これまでの実証方法をふまえた上で、GIS をはじめとするシミュレーションの手法を積極的に導入することで、人と自然環境との関係を具体的に把握する新たな歴史学の構築を目指す。



貞観 10(868)年 山崎断層を起震断層とする揺れの復原 ドットは古代寺院跡